

# 1. 経営成績等の概況

## (1) 当期の経営成績の概況

当連結会計年度の業績全般の概況

(単位：百万円)

|                     | 前連結会計年度<br>(平成29年12月期) |         | 当連結会計年度<br>(平成30年12月期) |         | 増減     |         |
|---------------------|------------------------|---------|------------------------|---------|--------|---------|
|                     | 金額                     | 構成比 (%) | 金額                     | 構成比 (%) | 金額     | 増減率 (%) |
| 売上高                 | 156,761                | 100.0   | 167,479                | 100.0   | 10,717 | 6.8     |
| 営業利益                | 22,925                 | 14.6    | 26,289                 | 15.7    | 3,363  | 14.7    |
| 経常利益                | 24,191                 | 15.4    | 27,374                 | 16.3    | 3,182  | 13.2    |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益 | 15,863                 | 10.1    | 18,023                 | 10.8    | 2,159  | 13.6    |
| 1株当たり当期純利益 (円)      | 201.31                 |         | 228.05                 |         | 26.73  | 13.3    |

当連結会計年度のわが国の経済は、政府による景気対策の継続などにより企業収益や雇用の改善など回復基調が見られ、個人消費についても緩やかな回復基調が見られます。

そうした状況のなか、当社グループは「“あったらいいな”をカタチにする」をブランドスローガンに、お客様のニーズを満たす新製品の発売や、既存製品の育成、今後の成長事業への投資に努めてまいりました。

その結果、売上高は167,479百万円（前連結会計年度比6.8%増）、営業利益は26,289百万円（同14.7%増）、経常利益は27,374百万円（同13.2%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は18,023百万円（同13.6%増）となりました。

セグメントごとの経営成績の概要は次のとおりです。

### 国内家庭用品製造販売事業

当事業では、より効果感の高いEX処方黒ずんだひじ・ひざのザラザラ治療薬「クロキュアEX」や、毛穴が目立つポツポツ肌治療薬「ケアノキュア」、上品フェミニンな香りとデザインのインテリアフレグランス「Sawaday PINKPINK STICK」、きらめくクリスタルボトルと最上級の香水調の香りの水洗トイレ用芳香洗浄剤「ブルーレット Premium PERFUME」、コスメチックのような華やかな香りの芳香消臭剤「お部屋の消臭元 プリンセスパルファム」など春に10品、秋に15品の新製品を発売し、売上に貢献しました。

既存品においては、ヘルスケアでは肥満改善薬「ナイシトール」、蓄膿症・鼻づまりを改善する内服薬「チクナイン」、歯槽膿漏予防ハミガキ「生葉」、舌下錠タイプのいぼ痔治療薬「ヘモリンド」など、日用品ではクルマ用芳香剤「Sawaday クルマ専用クリップ パルファム」や鼻呼吸を促すテープ「ナイトミン 鼻呼吸テープ」など、スキンケアではニキビ・肌あれ予防の薬用ローション「オードムゲ」などが好調に推移しました。

その結果、売上高は137,156百万円（前連結会計年度比5.6%増）、セグメント利益（経常利益）は24,006百万円（同15.2%増）となりました。営業利益は24,246百万円（同13.7%増）となりました。

売上高には、セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでおり、その金額は前連結会計年度では6,342百万円、当連結会計年度では6,777百万円となっております。

(外部顧客への売上高の内訳)

(単位：百万円)

|       | 前連結会計年度<br>(平成29年12月期) | 当連結会計年度<br>(平成30年12月期) | 増減    |         |
|-------|------------------------|------------------------|-------|---------|
|       |                        |                        | 金額    | 増減率 (%) |
| ヘルスケア | 58,127                 | 61,546                 | 3,417 | 5.9     |
| 日用品   | 52,352                 | 55,250                 | 2,897 | 5.5     |
| スキンケア | 6,047                  | 6,590                  | 542   | 9.0     |
| カイロ   | 6,965                  | 6,989                  | 24    | 0.3     |
| 合計    | 123,494                | 130,379                | 6,885 | 5.6     |

海外家庭用品製造販売事業

当事業では、米国・中国・東南アジアを中心に、カイロや額用冷却シート「熱さまシート」、外用消炎鎮痛剤「アンメルツ」などを販売しており、広告や販売促進など積極的に投資することで売上拡大に努めました。

その結果、売上高は26,641百万円（前連結会計年度比16.8%増）、セグメント利益（経常利益）は1,028百万円（同24.0%増）となりました。営業利益は1,104百万円（同18.1%増）となりました。

売上高には、セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでおり、その金額は前連結会計年度では1,044百万円、当連結会計年度では994百万円となっております。

（外部顧客への売上高の内訳）

（単位：百万円）

|       | 前連結会計年度<br>(平成29年12月期) | 当連結会計年度<br>(平成30年12月期) | 増減    |         |
|-------|------------------------|------------------------|-------|---------|
|       |                        |                        | 金額    | 増減率 (%) |
| 米国    | 8,553                  | 9,824                  | 1,271 | 14.9    |
| 中国    | 6,785                  | 8,994                  | 2,209 | 32.6    |
| 東南アジア | 3,650                  | 4,018                  | 367   | 10.1    |
| その他   | 2,778                  | 2,809                  | 30    | 1.1     |
| 合計    | 21,767                 | 25,646                 | 3,878 | 17.8    |

※当連結会計年度より、集計方法を売上元の所在地別から売上先の所在地別へ変更いたしました。前連結会計年度についても、当連結会計年度と同様に組替え比較を行っています。

通信販売事業

当事業では、栄養補助食品、スキンケア製品等の通信販売を行っており、広告やダイレクトメールを中心とした販売促進による、新規顧客の開拓と既存顧客への購入促進に努めました。

その結果、売上高は10,245百万円（前連結会計年度比0.6%増）、セグメント利益（経常利益）は148百万円（前連結会計年度はセグメント損失72百万円）となりました。営業利益は143百万円（前連結会計年度は営業損失75百万円）となりました。

売上高には、セグメント間の内部売上高または振替高を含んでおりません。

その他事業

当事業には、運送業、合成樹脂容器の製造販売、保険代理業、不動産管理、広告企画制作等を含んでおり、各社は独立採算で経営し、資材やサービス提供についてその納入価格の見直しを適宜行いました。

その結果、売上高6,669百万円（前連結会計年度比1.6%増）、セグメント利益（経常利益）は2,652百万円（同12.4%減）となりました。営業利益は642百万円（同15.2%減）となりました。

売上高には、セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでおり、その金額は前連結会計年度では5,242百万円、当連結会計年度では5,461百万円となっております。

(2) 当期の財政状態の概況

（連結財政状態）

（単位：百万円）

|             | 前連結会計年度<br>(平成29年12月期) | 当連結会計年度<br>(平成30年12月期) | 増減     |
|-------------|------------------------|------------------------|--------|
| 総資産         | 218,831                | 230,989                | 12,158 |
| 純資産         | 153,811                | 166,249                | 12,437 |
| 自己資本比率      | 70.3%                  | 72.0%                  | 1.7%   |
| 1株当たり純資産（円） | 1,947.82               | 2,102.49               | 154.67 |

当連結会計年度の財政状態は以下のとおりです。

総資産は、前連結会計年度末に比べ12,158百万円増加し、230,989百万円となりました。主な要因は、現金及び預金の増加（9,466百万円）、受取手形及び売掛金の増加（3,354百万円）、投資有価証券の減少（880百万円）等によるものです。

負債は、前連結会計年度末に比べ279百万円減少し、64,740百万円となりました。主な要因は、退職給付に係る負債の減少（748百万円）、支払手形及び買掛金の増加（427百万円）等によるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べ12,437百万円増加し、166,249百万円となり、自己資本比率は72.0%となりました。主な要因は、利益剰余金の増加（13,099百万円）、為替換算調整勘定の減少（722百万円）等によるものです。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況  
(連結キャッシュ・フローの状況)

(単位：百万円)

|                  | 前連結会計年度<br>(平成29年12月期) | 当連結会計年度<br>(平成30年12月期) | 増減      |
|------------------|------------------------|------------------------|---------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 22,350                 | 20,007                 | △2,343  |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | 7,039                  | △8,062                 | △15,102 |
| フリー・キャッシュ・フロー    | 29,390                 | 11,944                 | △17,445 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △9,162                 | △4,285                 | 4,877   |
| 現金及び現金同等物期末残高    | 48,688                 | 55,916                 | 7,228   |

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果獲得した資金は20,007百万円となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益が25,304百万円、減価償却費が2,964百万円、退職給付に係る負債の減少額が797百万円、売上債権の増加額が3,367百万円、たな卸資産の増加額が493百万円、仕入債務の増加額が481百万円、未払金の増加額が320百万円、利息及び配当金の受取額が745百万円、法人税等の支払額が7,953百万円あったためです。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は8,062百万円となりました。これは主に、定期預金の預入による支出が55,084百万円、定期預金の払戻による収入が52,832百万円、有形固定資産の取得による支出が3,419百万円、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出が2,461百万円あったためです。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は4,285百万円となりました。これは主に、自己株式の処分による収入が361百万円、配当金の支払額が4,818百万円あったためです。

以上の結果、現金及び現金同等物の期末残高は、前連結会計年度より7,228百万円増加し55,916百万円となりました。

翌連結会計年度の見通し

事業環境は引き続き厳しい状況ではありますが、投資資本の効率を意識した経営のもと在庫の削減など運転収支のさらなる改善に努めていきます。

製品開発などによる恒常的な設備投資は、当連結会計年度並みを予定しております。設備投資以外では、その他大きな投資案件は現在予定していないため、投資に使用する資金も当連結会計年度並みを予定しております。

キャッシュ・フロー指標のトレンド

|                           | 平成27年3月期 | 平成28年3月期 | 平成28年12月期 | 平成29年12月期 | 平成30年12月期 |
|---------------------------|----------|----------|-----------|-----------|-----------|
| 自己資本比率 (%)                | 74.8     | 75.1     | 71.2      | 70.3      | 72.0      |
| 時価ベースの<br>自己資本比率 (%)      | 187.9    | 210.0    | 195.8     | 264.1     | 255.7     |
| キャッシュ・フロー<br>対有利子負債比率 (年) | 0.0      | 0.0      | 0.0       | 0.0       | 0.0       |
| インタレスト・<br>カバレッジ・レシオ (倍)  | 929.4    | 740.5    | 738.6     | 801.7     | 753.8     |

自己資本比率：自己資本／総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額／総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債／営業キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：営業キャッシュ・フロー／利払い

※各指標はいずれも連結ベースの財務数値により算出しております。

※株式時価総額は期末株価終値×期末発行済株式数（自己株式数を除く）により算出しております。

※営業キャッシュ・フローは連結キャッシュ・フロー計算書の営業活動によるキャッシュ・フローを使用しております。有利子負債は、連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象としております。また、利払いについては連結キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用しております。

(4) 今後の見通し

(単位：百万円)

|                     | 当連結会計年度<br>(平成30年12月期) |         | 翌連結会計年度<br>(平成31年12月期) |         | 増減率 (%) |
|---------------------|------------------------|---------|------------------------|---------|---------|
|                     | 金額                     | 構成比 (%) | 金額                     | 構成比 (%) |         |
| 売上高                 | 167,479                | 100.0   | 173,000                | 100.0   | 3.3     |
| 営業利益                | 26,289                 | 15.7    | 27,300                 | 15.8    | 3.8     |
| 経常利益                | 27,374                 | 16.3    | 27,900                 | 16.1    | 1.9     |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益 | 18,023                 | 10.8    | 19,000                 | 11.0    | 5.4     |
| 1株当たり当期純利益 (円)      | 228.05                 |         | 240.29                 |         | 5.4     |

今後のわが国の経済は、政府の景気対策の継続などにより企業収益や雇用の改善など回復基調に推移しているものの、世界情勢の不安定さから依然厳しい状況が続くと予想されます。

このような状況にあって、当社グループでは「“あったらいいな”をカタチにする」をブランドスローガンに、今までにない付加価値のある新製品を開発し、お客様に提供してまいります。

国内家庭用品製造販売事業では、今春、歯周ポケットの汚れや歯垢を効果的に掃除できる「生葉45° 磨きブラシ」、「火」を使わずにアロマキャンドルのような甘く濃厚な香りを楽しめるインテリアフレグランス「Sawaday 香るStickアロマキャンドル」、女性のからだの変化にあわせた少しだけ『ワイド』で『ロング』なおりのシート「サラサティ コットン100ワイド&ロング」、古い角質をふきとることでシミ対策成分をお肌に浸透させる化粧水「ケシミンふきとり しみ対策液」など10品の新製品を発売し、新たな需要喚起を図るとともに、既存製品の育成に努めてまいります。

海外家庭用品製造販売事業では、米国・中国・東南アジアを中心に、カイロ、額用冷却シート「熱さまシート」、外用消炎鎮痛剤「アンメルツ」を柱とした販売戦略に取り組んでまいります。

通信販売事業では、栄養補助食品やスキンケア製品において広告やダイレクトメールなどによる販売促進を積極的に行い、新規顧客の獲得と既存顧客の継続購入の促進に努めてまいります。

これらの取り組みにより、翌連結会計年度の売上高173,000百万円（当連結会計年度比3.3%増）、営業利益は27,300百万円（同3.8%増）、経常利益は27,900百万円（同1.9%増）親会社株主に帰属する当期純利益は19,000百万円（同5.4%増）となる見込みです。

(5) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当

当社は、株主様への利益還元を重要な経営政策の一つと位置づけ、キャッシュ・フローの創出による企業価値の向上に努めています。そのために健全な経営体質の維持と高い成長が見込める事業に積極的な投資を図りながら、安定的な配当を基本に連結業績を反映した配当により、株主様への利益還元を向上させていく考えであります。

上記方針に基づき、配当については中間配当と期末配当の年2回行うこととし、平成30年12月期の1株当たりの配当金につきましては、従前予想より5円増配し66円（中間配当31円、期末配当35円）とさせていただく予定です。平成31年12月期の1株当たり配当金につきましては、68円（中間配当33円、期末配当35円）とさせていただく予定です。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

IFRS（国際財務報告基準）の適用につきましては、国内外の情勢を考慮の上、適切に対応していく方針であります。